

佐藤 智

特定非営利活動法人ライフケア互酬研究会 会長

医療・介護専門職と在宅高齢者との間の調整役機能に関する研究

2000年に「公的介護保険制度」が導入され、わが国の老人福祉も家族介護から社会介護への転換を目指す新たな局面を迎えた。同制度によって利用者（高齢要介護者）の介護ニーズの評価とサービス調整を担当する専門職として「介護支援専門員」が誕生したが、現状においてはさまざまな制約（報酬や位置づけ）から、利用者と密接なかかわりを保ったモニタリング機能への限界が指摘されている。そこでこれらの環境下で潜在化しやすいケアニーズを発掘するために、イギリスで運用された＜Geriatric Visitor＞というケアマネージャー職をモデルにおいて、わが国において在宅高齢者（家族）を中心とした「調整役」のあり方を研究に取り組んできた。

その結果「調整役」は個人の専門職能として捉えるべきではなく、専門職と非専門職のチームによって実現する「機能」であると結論づけ、これを広い対象で実際に運用し、コミュニティ活動として普遍化する手引きを策定し試行実践することにより、それらに関わる人材の能力やコスト・育成方法などを整理した。

今後は専門職と非専門職（調整役）との有機的な連携を可能にするための条件、システムを整備していくことが課題となった。